

2019 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
23401	食物アレルギーの医学・基礎と対応 Medical Science on Food Allergy : Basic Knowledge & Treatment	大島 美穂子	専門	2	選択	1 年前期

科目の概要

現在、乳幼児の約5%が食物アレルギーをもつといわれ、栄養士や医療とかかわる仕事を目指す人にとって食物アレルギーについての医学的知識は必須である。そこで、食物アレルギーの起きる仕組みや原因食品及びアレルゲン等の基礎知識を学習する。また、検査法や診断法並びに除去食、食事指導、薬物治療など臨床的な内容についても総合的に学ぶ。この授業では、適切なアレルゲン除去食提供や健やかな成長をめざした的確な食事指導を、科学的根拠に基づいて実践する能力を身に着ける。

★病院小児科にてアレルギー専門外来を 10 年以上継続中であり、数多くの食物アレルギー患児の診療の経験がある。臨床経験に即した講義を行っている。

学修内容	到達目標
① 食物アレルギーの仕組み、病型、診断、原因食品を知る。 ② アレルゲン除去食、栄養指導を知る。 ③ アレルギー症状の治療を知る。	① 食物アレルギーの仕組み、病型、診断、原因食品を理解し、説明することができる。 ② 除去食を含めた栄養指導を行うことができる。 ③ アレルギー症状の治療について理解し、説明することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	授業では教員の質問に積極的に答え能動的に参加できる。授業以外の時間では、課題について自己学習で資料や参考書を利用して知識を深めることができる。
	働きかけ力	
	実行力	到達目標を確認し、目指す成績目標を設定すること。そのうえで、目標が達成できるよう予習や復習に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	食物アレルギーの正しい知識を学習することで、食物アレルギー患者の日常生活における困難を理解し、栄養士として患者に提供すべき情報や知識を推察することができる。
	計画力	予習と復習で、能率よく自己学習を進めることができる。
	創造力	本科目や、食事療法論、食事療法実習、保育の基礎講座で学んだ知識を動員して、それぞれの患者に応じた除去食、栄養指導を自ら考えることができる。
チームで働く力	発信力	発言の際、相手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる。
	傾聴力	講義内容や相手の意見を丁寧に聞き取り、自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、私語、居眠りなど講義に支障をきたす行動をせず、ルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

参考文献:「AMED 研究班による 食物アレルギーの診療の手引き 2017」 食物アレルギーの診療の手引き 2017 検討委員会、「厚生労働科学研究班による 食物アレルギーの栄養食事指導の手引き 2017」 食物アレルギーの栄養食事指導の手引き 2017 検討委員会、食物アレルギー研究会、相模原病院臨床研究センター、日本アレルギー協会ホームページよりダウンロード可能

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連: 食事療法論Ⅱ、食事療法実習Ⅱ、病理学、生理学、解剖学、栄養学、食品学
資格との関連: 栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
食物アレルギーに関する理解は現在も進歩の過程である。食物アレルギーに関するニュースや新聞記事などには必ず目を通す。実際に自分が食物アレルギーを持つ子どもたちとかかわる際にどう対応すればいいかを想定しながら受講するとよい。	携帯電話の電源は切り、カバンにしまっておくこと。 私語を慎む。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	70	①	✓	食物アレルギーの仕組み、検査法と診断法、各アレルゲンの特徴について、基本概念や語句が理解できていること。 それぞれの患者に対し、適切な食事指導を計画できること。 アレルギー症状の治療法を正しく理解し、説明できること。 必須の学修内容を理解し、ポイントを押さえ、自ら考え記述しているか評価する。
		②	✓	
		③	✓	
小テスト	20	①	✓	第13週までの内容について理解度を確かめるために第14週に小テストを行い評価する 基本概念や語句を理解できているか確認する。 穴埋め問題、記述問題、計算問題を出題する。
		②	✓	
		③	✓	
レポート				
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	「主体性」自ら知識を深める姿勢・行動がみられること 「実行力」自己の学修目標を設定してその達成に努力すること。 「課題発見力」個々の食物アレルギー患者に有益な情報が何か考えられること。 「計画力」予習・復習で能率的に自己学習ができること。 「創造力」知識を活用し栄養指導を計画しわかりやすく説明できること。 「発信力」聞き手に分かりやすい発表の仕方ができること。 「傾聴力」相手の意見を丁寧に聞き取り自分の意見を述べられること。 「規律性」授業が円滑に進行するよう、遅刻、無断欠席、授業に支障をきたす行動をしないこと。
		②	✓	
		③	✓	
その他				
総合評価 割合	100			筆記試験、14回講義に行う小テストおよび社会人基礎力(毎回の講義で行う確認テストの成績も加味する)の成績を総合して評価する。

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>★食物アレルギーの仕組み、検査法と診断法、各アレルゲンの特徴を正しく理解し説明できること。(①)</p> <p>★患者に応じたアレルゲン除去食、食事指導を計画し、的確に記述・説明できること。(②)</p> <p>(②)</p> <p>S(秀) = ① + ②、A(優) = ①または②</p>	<p>★食物アレルギーの病型、検査法と診断法、主要アレルゲンの名称を正しく記述し、簡潔に説明できること(①)。アレルゲン除去食、食事指導の基礎知識を説明できること(②)。</p> <p>B(良) = ① + ②、C(可) = ①</p>

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	○アレルギーとは何か アレルギーの仕組み、 食物アレルギーとは何か を理解する。	講義	食物アレルギーの定義を説明できる。	予習:診療の手引き p. 1, 3(食物アレルギーの定義、疫学) 復習:食物アレルギーの定義、疫学	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
2週 /	○食物アレルギーの基礎 食物アレルギーの病型、 症状について理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	食物アレルギーの病型を正確に記載でき、説明できる。	予習:診療の手引き pp 1~2(食物アレルギーの病型) 復習:確認テストに向けた復習(食物アレルギーの病型、症状)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
3週 /	○検査と診断 血液検査・皮膚検査・食物経口負荷試験などについて理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	食物アレルギーの検査法と診断手順を説明できる。	予習:診療の手引き pp 7~9, 12~15(食物アレルギーの検査) 復習:確認テストに向けた復習(食物アレルギーの検査)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
4週 /	○症例を通して学ぶ ・新生児・乳児消化管アレルギー ・食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎について理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	新生児・乳児消化管アレルギー、食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎の症状と診断手順を説明できる。	予習:診療の手引き p 1, 11(食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎の病態と診断) 復習:確認テストに向けた復習(新生児・乳児消化管アレルギー、食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎の症状と診断)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
5週 /	○症例を通して学ぶ ・即時型症状 ・食物依存性運動誘発アナフィラキシー ・口腔アレルギー症候群について理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	即時型症状、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、口腔アレルギー症候群の症状と診断手順を説明できる	予習:診療の手引き p 1, 2, 11(即時型症状の病態と診断) 復習:確認テストに向けた復習(即時型症状、食物依存性運動誘発アナフィラキシー、口腔アレルギー症候群の症状と診断)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
6週 /	○食物アレルギー症状出現時の対応について理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	症状出現時の対応方法、使用する薬剤について説明できる。	予習:診療の手引き pp 21~25(症状出現時の対応) 復習:確認テストに向けた復習(症状出現時の対応方法、使用する薬剤)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
7週 /	○食物アレルギー症状アナフィラキシーの対応、エピペン®について理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	アナフィラキシーの対応、エピペン®の使用方法について説明できる。	予習:診療の手引き pp 21~25(症状出現時の対応) 復習:確認テストに向けた復習(アナフィラキシーの対応方法、エピペン®の使用方法)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
8週 /	○アレルゲン総論 アレルゲンとは何か、タンパク質の性質と構造、コンポーネントについて理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	アレルゲン、アレルゲンコンポーネント、交差抗原性について説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き p 1(食物アレルゲン) 復習:確認テストに向けた復習(アレルゲン、アレルゲンコンポーネント、交差抗原性)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	○アレルギー各論 鶏卵、牛乳アレルギー アレルギーの特徴、症状の特徴などを理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	鶏卵アレルギー、牛乳アレルギーの主要アレルギーと食事栄養指導について説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き pp 14~20(鶏卵アレルギー、牛乳アレルギー) 復習:確認テストに向けた復習(鶏卵、牛乳のアレルギー、指導)	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
10週 /	○アレルギー各論 小麦、米、ソバアレルギー アレルギーの特徴、症状の特徴などを理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	小麦アレルギー、他の穀物アレルギーの主要アレルギーと食事栄養指導について説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き pp 21~23(小麦アレルギー) 復習:確認テストに向けた復習(小麦、米、ソバのアレルギー、指導)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11週 /	○アレルギー各論 魚、甲殻類、魚卵、肉アレルギー アレルギーの特徴、症状の特徴などを理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	魚、甲殻類、魚卵、肉アレルギーの主要アレルギーと食事栄養指導について説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き pp24, 25, 27 (魚、甲殻類、魚卵、肉アレルギー) 復習:確認テストに向けた復習(魚、甲殻類、魚卵、肉のアレルギー、指導)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
12週 /	○アレルギー各論 野菜、果物アレルギー アレルギーの特徴、症状の特徴などを理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	野菜、果物アレルギーの主要アレルギーと食事栄養指導、PFAS について説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き pp26~27(野菜、果物アレルギー) 復習:確認テストに向けた復習(野菜、果物のアレルギー、指導、PFAS)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
13週 /	○アレルギー各論 大豆、ピーナッツ、ナッツ類、ゴマアレルギー アレルギーの特徴、症状の特徴などを理解する。	講義 授業開始時に確認テスト(復習内容の質問に記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	大豆、ピーナッツ、ナッツ類、ゴマアレルギーの主要アレルギーと食事栄養指導について説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き pp24~26(大豆、ピーナッツ、ナッツ類、ゴマアレルギー) 復習:確認テストに向けた復習(大豆、ピーナッツ、ナッツ類、ゴマのアレルギー、指導)	120	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
14週 /	○1~13 週のまとめ 食物アレルギーの総合知識を定着する。	小テスト(復習内容を記述で解答。テスト後答え合わせし解説する)	前週までの内容を理解できている。	予習:1~13 週までのノート、テキスト、確認プリントを見直すこと。 復習:間違った問題について確認すること。	180	実行力 課題発見力
15週 /	○栄養食事指導と食物アレルギーの最新知識 栄養食事指導の実際について理解する。また、食物アレルギーの最新の知識を知る。	講義	アレルギー除去食や食事指導の留意点を説明できる。	予習:栄養食事指導の手引き pp10~13, 31(栄養食事指導、給食対応)、診療の手引き p5, 6, 16, 19(予防、管理、経口免疫療法) 復習:栄養食事指導、給食対応	180	主体性 創造力 発信力 傾聴力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力